

令和4年度 学校評価 報告書

報告日
令和5年3月20日

幼稚園名	芦屋市立宮川幼稚園
園長名	澁谷 倫子 印

1 今年度の重点目標

1 教育課程の推進 2 幼児期から小学校期への円滑な接続の推進 3 地域と連携した豊かな保育や子育て支援
--

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○評議員会及び学校関係者評価委員会を対面で実施した。 ○保護者アンケートを実施、集約し保護者へ結果を周知している。 ○生活発表会・学校評価アンケートの結果や園だより等の提示や日々の様子を動画にまとめ、評価を依頼した。
--

3 学校自己評価結果

(A:十分達成している B:達成している C:概ね達成している D:達成していない)

No.	分野	重点項目	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策	4 評価項目に係る学校関係者評価 学校自己評価結果及び改善方策についての評価
1	教育課程	1 3	<p>○自然や生き物とのふれあいを日々の保育に取り入れ、子どもが栽培活動や、生き物の命にふれる活動を積極的に行った。さらに経験したことを話し合いや絵画制作で豊かに表現した。新たに取り組んだICTを活用した保育では、子どもの実体験をさらに豊かなものにするための実践を行っていた。論文に応募し、優秀園を受賞するなど、対外的にも取り組みが認められた。オンラインを活用して新たな学びの芽生えを構築する等、子どもたちの興味・関心の深まりにつながっていた。</p> <p>○小中学校と連携し、相互に訪問する機会をつくっていた。子ども達が小中学校の環境や児童・生徒に親しみをもち、成長することへの期待感を高めることができるよう連携を図った。</p>	B	<p>○園内外の身近な自然や生き物とふれあえるよう、四季折々の実体験を計画的に行い、子どもたちが豊かな経験ができるよう環境作りを行った。家庭ではできない経験を園でできるように努めた。</p> <p>○公立園のよさを活かし、地域の小中学校と相互に連携・交流していることは評価できる。今後は、コロナ禍で中止していた高齢者施設等との交流も再開され、今後も「地域でともに育つ子ども」を目指す。</p>	<p>○新型コロナの状況を見ながら子どもにとって必要な経験や行事をできる限り実施していた。</p> <p>○保護者アンケートに「子ども一人ひとりを大切にしている」という記述が多いことから、職員が温かく子どもと接し、必要な指導をしていることが伺える。今後も引き続き、保護者理解を得ながら保育を推進する。</p> <p>○幼児期において実体験を重ねることは大切である。ICT機器の活用については「直接体験を補うもの」という理念を大切にしながら新たな活用にも取り組まれない。</p> <p>○地域の就学前施設との交流を再会されたことはよい。今後も地域のリーダー的役割を果たせるよう努められたい。</p>
2	安全管理	3	<p>○地域人材を発掘し、定期的に子どもたちに折り紙や英語、リズム等、継続して指導を受けることで、地域の教育力を教育過程に反映させた。子育てひろばの参加組数も増えていることから、地域の幼稚園として遊びの場を提供していた。</p> <p>○自治会と協力し、防災研修会に参加したり、防災用品を提供したりするなど、地域に参画していた。</p>	B	<p>○地域の教育ボランティアとの定期的な交流が定着した。今後も地域の教育力を活かすとともに、新たな交流を拡大していけるよう工夫した。</p> <p>○今後も地域の愛護委員や防災会の方に避難訓練や防災研究会に参加いただき、連携を推進する。地域の自主防災会との連携も継続していく。</p>	<p>○子ども達が地域の自然環境に触れ、地域の方に関わっていただくことは、自己肯定感にもつながるものである。地域で育っていることを子どもが感じ取れる交流内容を今後も工夫する。</p> <p>○防災教育は保護者にとっても防災を知るよい機会となっている。地域に発足した、防災の取り組みを推進し、園との連携・協力を推進したい。</p>

5 総合的な学校関係者評価

適切に園運営が行われている。
